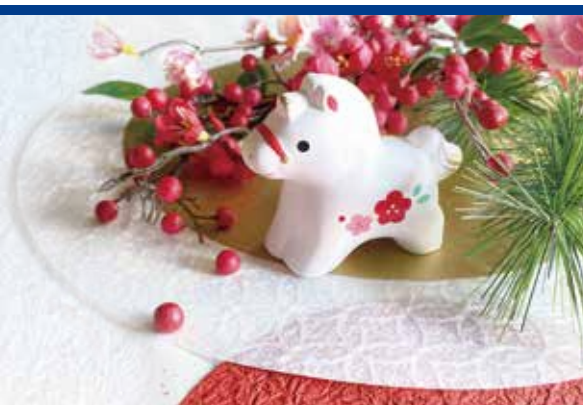




年頭のご挨拶

代表取締役社長
高橋 朋道



皆さま、新年明けましておめでとうございます。

お取引様の皆様におかれましては平素より弊社製品をご愛顧賜り、心から厚く御礼申し上げます。2026年の年頭にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

昨年はトランプショックにより世界経済が壊滅的な影響を受けるのではないかと緊張して新年を迎えました。米中決裂には至らなかったものの、関税のみならずトランプ大統領の強権的な政策や行動により日本経済も大きな影響を受けています。また高市政権に移行した後、一段と円安が進み、食料品価格や当社の原材料コストにも大きな影響をもたらしています。一方、昨年の訪日外国人は4,000万人超と見込まれ、インバウンド需要も拡大しています。また、大阪万博は当初、成功を危ぶむ声もありましたが、結果は2,500万人を超える入場者を集め大成功となりました。

プラスチック食品容器に求められる役割は、食の安全・安心の確保に加え、人手不足への対応、そして循環型社会への貢献へとますます高度化しております。当社は、これらの変化に社員と共に真正面から向き合い、皆様とともに新たな価値を見出していきたいと考えます。

今年は当社の強みである嵌合技術を更に発展させて参ります。大変ご好評を頂いている惣菜向け嵌合フードパックの品揃え強化を図ると共に、コネクタ嵌合やスライド嵌合などユニークな嵌合製品を開発していきます。また、新たな素材開発にも注力して参ります。皆さまには是非一度お手にとって頂き、感じて頂きたい、そしてご評価頂きたいと思っています。お客様に、消費者に寄り添う新製品を開発し、豊かな食生活に貢献して参ります。

また、世界では化学品・プラスチックなどの使用制限を議論する政府間交渉委員会（INC）が開催されましたが、未だコンセンサスには至っておりません。その中で、日本ではサーキュラーエコノミーの重要性はこれまで以上に高まっており、経産省や環境省など政府も力が入っているなど感じております。当社はISCC PLUS認証に基づくバイオ製品に加え、デンカ・東洋スチレンと共にスチレンケミカルリサイクル製品の開発に取り組んでいます。持続可能な資源循環の実現を目指しており、昨年、デンカグループの資源循環システムブランド「D-NODE®」を立ち上げました。皆様のご協力を頂きながら共に実現に向けて歩んでいきたいと考えております。

本年も、皆様のご期待にお応えするため、品質の向上と技術革新に誠心誠意取り組んでまいります。引き続き変わらぬお引き立てを賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご繁栄を心よりお祈りいたしまして 2026年の年頭のご挨拶とさせていただきます。

※ D-NODE（文字及びロゴ）はデンカ株式会社の登録商標です。